

文書課長

公 信 案

別紙

(甲) 號用紙

文書課發送

昭和六年七月廿九日發送済

浄書

正(原稿)

(浄書) 機付

主管 條約局長

主任 條約局長

(起草) 昭和六年七月廿九日

普通 第一七五

號 大正

昭和六年七月廿八日

附屬書

通

受信

人名

人名

澤田聯盟帝國事務局長

發信

人名

澤田大正

件名

婦人兒童賣買實地調査

級 込 名

國際聯盟南洋婦人兒童賣買實地調査委員ヨリ

往年一々邦海外賣買婦人賣買減一爲一帝國政府及我政府

一孰リタル措置ニ付賣買向アリタルヲ以テ別紙一併賣買婦

懸案

公 信 案

外 務 省

別紙

一併送付

海外渡航取締ニ付スル訓令通牒並譯及別紙一併

帝國政府及我政府、賣買婦人賣買減一爲一孰リタル措置

海外

概況並譯文同委員ニ提出シ置キタルニ付加印添付ス

(別紙一併及別紙一併送付)

公 信 案

外 務 省

B-0919

0097

修訂第三版

秘

在外邦人醜業婦ノ取締ニ關スル訓令

明治十六年八月中上海密航婦女ノ取締ヲ嚴重ニスヘキ旨内地各地
方長官ニ訓令セリ

明治十八年七月中海外渡航婦女並ニ密航者取締方長崎、福岡、山
口、兵庫、大阪、神奈川各地方長官ニ嚴達シ重ネテ同月中無旅券
婦女ノ渡航及不正渡航者ノ取締並ニ乗船取締方訓令シ同時ニ其旨
各汽船會社ニ輸送セリ

明治廿五年十月中密航取締方長崎縣外十二縣ヘ訓令セリ

明治廿六年三月中不良ノ徒ノ甘言ヲ以テ海外ノ事情ニ疎キ婦女ヲ
誘惑シテ海外ニ渡航セシメ醜業ヲ強行セシムル者アリ此等醜業婦
ハ海外ニ於テ悲慘ノ状態ニ陷ルモノ不尠ニ付嚴重取締方警視總監

(赤梓紙)ト

外務省

0.3

(赤梓紙)ト

北海道廳長官、各府縣知事ヘ訓令セリ

明治廿三年四月中西濠洲ニ於ケル邦人醜業婦取締方法ニ關シ詳細
報告方在「シドニー」帝國領事ニ訓令セリ

明治三十五年七月中密航婦女ノ取締方ニ關シ福岡縣知事ニ訓令セ
リ

明治卅九年法律第八〇號

清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法

第一條 「清國及朝鮮國」在留ノ領事ハ在留ノ帝國臣民該地方ノ安
寧ヲ妨害セムトシ又ハ該地方ノ風俗ヲ擾亂セムトスルモノアル時
ハ一年以上三年以下在留スルコトヲ禁止ス可シ

以下省略

外務省

0.3

B-0919

0098

一、明治卅九年六月日露戦后一般ニ密航者ノ數増加ノ傾向アルニ依リ
嚴重取締方長崎、神奈川、兵庫、福岡、山口各縣知事ニ訓令セリ
二、明治四十二年三月中在外邦人醜業婦取締ニ關シ日本基督教婦人矯
風會ヨリ取締法令制定方從來屢々議會ニ請願スル處アリ今回モ議
會ニ於テハ之ヲ採擇スヘキモ決シタル處本件ニ關シテハ新
刑法ヲ以テ夫々規定スル處アルヲ以テ特ニ法律制定ノ要ナキモ醜
業婦ノ渡航ヲ未然ニ防止スルハ吃緊事ナルヲ以テ此際嚴重取締相
成度旨内地各地方長官並ニ在外各公館長ニ訓令セリ
三、明治四十三年十月中海外渡航移民ニシテ他人ノ名義ヲ籍リテ出願
シ寫真ノミハ自己ノモノヲ貼付スルカ如キ奸策ヲ弄スルモノアリ
特ニ米國行醜業婦ニシテ此種ノ手段ヲ用フルモノ多キニ付旅券出

外
務
省

6.3

(赤梓紙)ト

願者ニ對シ綿密調査相成度旨各地方長官警視總監へ通牒セリ
一、大正元年八月中新嘉坡渡航婦女ニシテ領事發給ノ證明書ヲ提出セ
スシテ旅券ヲ願出ルモノニ對シテハ醜業ノ目的ヲ以テ渡航スル者
ニ非サルヤ否ヤ將又領事發給ノ在留證明書ヲ提示スル場合ニ於テ
モ事實ノ真相ヲ究メタル後旅券交付相成度旨各地方長官ニ通牒セ
リ
二、大正七年一月中支那各地ニ於ケル邦人醜業者ニシテ相當ノ居ヲ構
ヘ料理業ヲ營ムモノノ如キハ兎モ角滿洲各地ニ於テハ不体裁極マ
ル場屋ニ於テ專ラ下級外國人ヲ顧客トシ醜業ヲ營ムモノ多キ爲メ
過般奉天ニ於テ開催セラレタル領事官會議ニ於テハ右様ノ醜業者
ハ其營業狀態ヲ改善セサルニ於テハ本年末迄ニ之ヲ禁絶スルコト

外
務
省

6.3

ニ決議ノ次第有之タルニ付今般在滿洲各領事官及各分館主任ニ對シ右決議ノ趣旨實行方訓令置キタルヲ以テ貴管内ニ於テ右等下級醜業者アル場合ハ右ノ趣旨ニ依リ相當措置相成度旨在支各領事官ニ訓令セリ

一、同月中在滿洲邦人醜業婦取締ニ關シ奉天領事官會議ニ於テ決議事項第五不正營業ノ取締ニ關スル件ノ五トシテ決議ノ趣旨ヲ適當ト認ムルニ付右實行相成度旨在滿洲各領事ニ通牒セリ

一、大正九年一月中醜業婦ノ海外渡航ニ對シテハ今後特ニ嚴重取締相成度旨警視總監各地方長官及拓殖局長官ニ通牒セリ

一、大正十年六月中邦人醜業婦ノ多數海外ニ在ルコトハ我國ノ体面上面白カラサルハ勿論之カ爲メニ我國民ノ堅實ナル海外發展ヲ阻害

外務省

(赤梓紙)ト

6.3

スル所以ナルヲ以テ最近在新嘉坡山崎總領事代理ノ爲セル如ク一定ノ期間ヲ定メ全部廢業セシムルカ若シ能ハサレハ當該地方官憲ニ對シ新規營業ノ許可ヲ與ヘサル様聯絡ヲ保チ現ニ營業スル者ハ機ヲ見テ廢業セシムルカ如キ漸減主義ヲ採ルカ何レニシテモ各地方ノ事情ヲ參酌シテ一定ノ方針ヲ確立シ之ニ據ツテ醜業者ノ絶滅ヲ計ルヘク尙ホ此際適當ナル具体的廢娼實行方法ヲ立案シ報告スヘキ旨在外各公館長ヘ訓令ヲ廢セリ(別紙寫ノ通)

(赤梓紙)ト

6.3

外務省

普通合第二九一號

大正十年六月十六日

内田大臣

東南南洋
別紙各在外公館宛

醜業婦取締方ニ關スル件

在外本邦人醜業婦ノ取締ニ付テハ從來各在外公館ニ於テ常ニ苦心セ
ル處ニシテ最近在新嘉坡山崎總領事代理ハ管内娼婦千百餘名ヲ一定
期間内ニ全部廢業セシムルノ方針ヲ立テ苦心ノ結果既ニ大部分其ノ
目的ヲ達シ尙ホ多少殘存セル者モ本年六月末迄ニハ悉ク廢業セシム
ヘキ豫定ノ趣ニ有之又在香港大森總領事代理ハ漸減主義ヲ採リ同政
廳ト聯絡ヲ保チ新規ニ醜業婦ヲラントスル者ニ對シテハ絕對ニ許可

外務省

(赤押紙)ト

ヲ與ヘサルコトニ取扱居又蘭貢方面ニ於テモ同様ノ問題起リ居趣ニ
有之候

抑モ多數本邦醜業婦ノ海外ニ在ルコトカ我國体上面白カラサルハ勿
論之カ爲我國民ノ堅實ナル海外發展ヲ妨害スルコト少カラサルヲ以
テ本省ニ於テハ出來得ル限り之カ絶滅ヲ計リ度希望ナル處各地事情
ヲ異ニシ一律ニ取扱難キモノアルヘキニ依リ前記新嘉坡ノ例ノ如ク
短期間ニ一掃シ難キモノハ香港ノ例ノ如ク漸減ノ主義ニ依リ徐々ニ
絶滅ヲ期スルモ亦一策ナラント思考致候何レニシテモ各地ニ依リ一
定ノ方針ヲ樹立シ常ニ同一方針ニ從ツテ絶滅ヲ計ルコト緊要ナルニ
付醜業婦取締ニ付テハ貴官ニ於テモ從來少ナカラス御配慮相成居候
ヘ共毎年日本婦人矯風會矢島楫子外六百六十一名ヨリ在外賣淫婦取

外務省

B-0919

0101

締法制定ニ關シ帝國議會ニ請願書提出ノ次第モ有之旁此際貴地方ノ事情篤ト御參照ノ上適當ナル具体的廢娼實行方法御立案ノ上御報告相成度此段申進候也

本信送付先別表ノ通り

(赤梓紙)ト

外務省

0.3

在外公館ニ於ケル取締狀況

滿洲

奉天領事官會議ノ決議ニ基キ

(哈爾濱)ニ於テハ大正七年二月四日告示ヲ發シ管内藝妓、酌婦其他特種婦女ニシテ下級外國人ヲ顧客トシ醜業ヲ營ミ又ハ之等婦女ヲシテ醜業ヲ營マシメ其狀態風俗ヲ紊シ帝國臣民ノ体面ヲ汚損スルモノト認メタルモノニ對シテハ大正七年限リ其營業許可ヲ取消シ又ハ禁止スヘキ旨示達スルト同時ニ之等醜業者ノ狀態改善方注意ヲ與ヘタリ

而シテ先ツ一般料理店ニ對シ資格標準ヲ定メ同年四月四日告示ヲ發シタリ其ノ主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

(赤梓紙)ト

外務省

0.3

B-0919

0102

(一)料理店ノ建物ヲ改修シ外面ノ体裁ヲ整フルコト
(二)外人ヲ主タル顧客トナス料理店ハ藝妓、酌婦ヲ抱フルコトヲ得ス
其他衛生上ノ設備ヲ完備セシメ藝妓、酌婦ノ専用浴室ヲ設ケシムル
コトトセリ
(齊々哈爾)我領事ニ於テハ邦人醜業者ニシテ下級外國人ヲ顧客ト
スル者ニ對シテハ大正七年限リ其營業ヲ禁止スヘキ旨嚴達セリ
(彈春)大正六年三月下級料理店營業者ニ對シ設備改良ヲ命シ從前
ノ土足踏込式ヲ廢止セシム又家屋ノ改築、營業方法ノ改良、土足苦
力ノ出入ヲ拒絕セシメ以テ一般下層外人ノ出入ノ淘汰ヲ計リ尙張店
ハ外部ヨリ透見シ得サルヤウ嚴命セリ之カ爲自然ニ營業不振ニ陥リ
逐ニ七名ニ減スルニ至レリ

(赤梓紙)ト

6.3

外務省

上海

明治十六年上海領事ヲ請訓ニ基キ司法當局ト商議ノ上賣淫罰則並處
分内規ヲ制定シ凡テ内規トシテ施行スルコトトセリ又同年三月太政
官布告第九號ヲ以テ清國朝鮮在留日本人取締規則第一條ヲ改正シ風
俗ヲ壞亂スルニ至ル可キ虞アリト認メタル者ニ對シテハ領事ニ於テ
在留禁止處分ヲ爲シ得ルコトトセリ
右諸施設ニヨリ一時狀態大ニ改善セラル
明治十八年内地ヨリ優秀熟練ノ巡查ヲ増派シ一層取締ヲ勵行
明治十八年八月中同領事ニ於テ說諭ノ上廢業歸國セシメタルモノ十
九名
翌十九年中說諭ニヨリ廢業歸國セルモノ數十名

(赤梓紙)ト

6.3

外務省

明治卅年十月同領事ヨリ醜業從事中ノ者若ハ醜業從事ノ爲渡航シタル婦女ヲ送還セムト欲スルモ送還費用ノ出所ナキニ付之カ支出方請訓アリタルモ密航婦ノ内地送還費用ハ本人ノ所持金ニ依ルノ外ナク亦醜業從事ノ故ヲ以テ取押ヘ送還スルモ法規ノ明文上之ヲ處斷スルノ方法ナク要スルニ嚴シク說諭訓戒スルニ止マル次第ナルモ兎ニ角說諭歸國セシムルコトトシ尙ホ志ヲ革メス歸國セサルカ又ハ企業ニ就カサル時ハ管轄内ニ於ケル醜業ヲ禁止シ尙之ニ從ハサルニ於テハ刑法ノ明文ニ從ヒ處罰シ尙必要ナルニ於テハ明治廿九年法律第八〇號ニ依リ在留禁止ノ處分ニ出ツヘキ旨同訓

明治卅四年五月同領事ヨリ長崎港ヨリ密航シ來ルモノ多數アルニヨリ嚴重取締方同縣ヘ訓令アリ度旨稟請アリタリ

(赤梓紙)ト

外務省

6.3

香港

元來香港ニ於テハ公娼ヲ認メ數ニ制限ヲ措カス適法ノ願出ニ對シテ鑑札ヲ下付シツツアリシヲ以テ明治十八年九月中我領事ヲシテ英官憲ニ對シ邦人醜業婦ノ許可數制限方ヲ交渉セシメタル結果爾後五十名ヲ限度トシ且ツ一度ヒ我領事ニ於テ在留禁止處分ニ付シタルモノニシテ再渡航シタルモノハ絶對ニ許可ヲ與ヘサルコトニ取極メタリ

大正二年五月中領事ニ於テ英國官憲ト交渉ノ結果從來邦人婦女ノ娼妓登録ニ際シテハ同地「レヂストラ」ゼネラルニ其姓名、年齢及本人ノ自由意思ニ依ルモノナルコトヲ申立ツルヲ要スルノミナリシヲ今後ハ我領事ニ於テ取調ノ上適當ト認メタル者ニ對シ證明ヲ與ヘ之ヲ所持スルモノノミニ對シ英官憲ニ於テ登録ヲ許可スルコトト

(赤梓紙)ト

外務省

6.3

改メタリ而シテ領事館ニ於テハ本人ノ戸籍謄本及保護者ノ同意書ヲ有スル者ニ對シテノミ右證明ヲ發給スルコトトセリ以上ノ施措ヲ以テ一面醜業従事者ノ數ヲ間接ニ制限シ他面被誘拐者ヲ保護セムトセリ

大正二年十月右手續中ノ一部ヲ變更シ領事館ノ發給スル證明書ハ本人ニ交付スルコトヲ止メ直接英官憲ニ送付スルコトトセリ

以上ノ措置ヲ講シタルニ不拘陸海軍兵士ノ爲メ存置ヲ得策トスルニ由ルカ或ハ大体ニ於テ邦人社會ノ問題ニ對シテ不關主義ヲ持スルニ由ルカ半公平私的ノ邦人醜業婦逐次増加シ其數百五十名ヲ算スルニ至レリ此ニ於テ大正九年十一月我カ領事ヨリ更ニ英官憲ニ對シ交渉スル處アリ其結果爾後新ニ邦人婦女ヨリ娼妓登録申請アルモ登録

(赤梓紙)ト

外務省

6.3

ヲ許可セサルコトニ取極メ以テ絶對ニ増加ヲ禁止スルコトトセリ

大正八年一月香港ニ旅券規則實施セラレタル結果醜業婦ノ渡航困難トナリ一方新規登録ヲ見サル結果漸次減少ヲ示シ廢滅ニ赴キツツアリ

關領東印度

從來同地方ニハ邦人醜業婦多數アリシモ大正二年八月同領政府ニ於テハ刑法ノ一部ヲ改正シ同年九月ヨリ之ヲ施行スルコトトナリ一般醜業婦ニ對シ八月末日限り退去ヲ命シタル爲邦人醜業婦モ凡テ其影ヲ潛メタリ尙ホ白人賣買防止條約ヲ邦人ニ適用方ニ開シ同領政府ノ提議ヲ容シ其勵行ニ關シ極力同地官憲ヲ援助シ以テ婦女誘拐者ノ撲滅ヲ計レリ

外務省

6.3

蘭 貢

我領事ニ於テ關係者一同ヲ召集シ廢業方懇諭スル處アリ爲ニ弗々廢業スルモノアリ只タ負債償却ノ叶ハサルモノノミ殘存セルカ大正九年十二月同地總督ハ醜業禁止條例ヲ發布スルニ至レリ

新嘉坡

從來屢々廢業方說諭ヲ加ヘ來リシモ法ノ制裁ナキ爲メ面從腹背容容ニ其跡ヲ絶タス益其數ヲ増加スルノミナリシカ大正二年中同地英國官憲ハ邦人醜業婦ニ關係アル無賴漢ヲ追放セルコトアリ大正三年五月中同官憲ハ再ヒ之ヲ企テ邦人妓樓ニ關係アル嬖夫四拾六名ニ對シ退去命令ヲ發セムトシ我領事ニ内談アリ我領事ハ斯カル多數ヲ一時ニ退去セシムルハ事態面白カラストナシ領事ノ手ヲ以テ說諭歸國セ

(赤 梓 紙) ト

外 務 省

6.3

セシムルコトトセリ

大正六年中我領事ハ醜業婦女誘拐ニ對シ銳意取締ヲナシ被誘拐者ヲ發見セルコト夥シ

管内「ベナム」ニ於テハ同地官憲ハ大正八年十二月廿三日限り廢業スヘキ旨邦人醜業婦ニ命令ヲ發セリ

大正九年我領事ハ在新嘉坡邦人醜業婦百七十五名全部ニ對シ同年六月末限り廢業スヘキ旨說諭戒告ヲ與ヘ引揚ヲ誓ハシメタリ

大正九年一月四日ヨリ三日間ニ亘リ新嘉坡ニ於テ開催サレタル同總領事館管内各地日本人會聯合會ハ同年十二月限り自發的ニ邦人醜業婦ノ廢止實行ヲ決議セリ

先是我領事ハ同地官憲ト交渉シ海峡殖民地(新嘉坡、マラツカ、ペ

外 務 省

6.3

(赤棒紙)ト

ナム)ニ於テハ爾後新規ニ邦人公娼ヲ許可セサルコトヲ取極メ爲ニ
 同方面ニ於ケル邦人醜業婦ハ漸減セリ
 我領事ハ大正八年十二月以來數回ニ亙リ娼婦全部ヲ召集シ各人ニ就
 キ取調及勸告ヲナシ一面之ニ關シ英國官憲ト打合セスル處アリ
 廢娼後引續キ滞留セムトスルモノニ對シテハ保證人同道領事館ニ出
 頭セシメ適當ト認メタルモノニ限り保證誓ヲ徴シ其滞留ヲ許スコト
 トセリ

大正九年三月乃至五月中前後二回ニ亙リ吉田副領事ヲ半島各地ニ出
 張セシメ邦人娼婦取調及廢業勸説ヲ爲サシメ僻遠ノ地ニ散在スル娼
 婦ニ付テハ便宜最寄日本人會及地方在留ノ有力ナル企業者ノ協力ヲ
 求メタル處之カ廢娼經過ハ頗ル順調ニ進ミ「マラツカ」(娼婦數一

外務省

(赤棒紙)ト

六名)及「ジヨホール州内バトバハ」(一二名)ニ於テハ六月前後
 ニ於テ又「ベラ」州内「タイピン」附近(四五名)「ケダ」州(四
 六名)ハ十一月末ニ於テ全部廢業シ其他ノ地方ニ於テモ漸次廢業ノ
 運ニ至リ半島各地ニ於テ十一月末迄ニ廢業シタルモノ合計三七七名
 ニ達セリ(本邦へ送還シタリ)

海防

營業主ニ對シ相當準備期間ヲ附シテ廢業方ヲ告知シ一方佛國官憲ノ
 諒解ヲ得テ新規營業ヲ許可セサルコトトシ以テ漸次絶滅ヲ計リツツ
 アリ

盤谷

大正十年七月領事報告ニヨレハ新規營業ヲ許サス營業者ニ對シテハ

外務省

適宜説諭ヲ加ヘテ自發的ニ廢業ヲ促シタル結果弗々廢業者ヲ出シ遠カラス消滅ノ希望アリ

孟 買

大正十年七月領事報告ニヨレハ漸次減退ノ情勢ニ在ルモ殘留者ニ對シテハ前措置其他實際ノ趨勢等ヲ參酌シ歸國可能ナルモノハ逐次諭示ノ上退去セシムル様取計ヒ居レリ

蘭 貢

大正十年七月二日附ヲ以テ醜業婦禁止條例公布セラレタルカ公布前我領事ニ於テハ多數ノ邦人醜業者ヲ一時ニ歸國セシムルノ困難ヲ慮リ施行期日ニ關シ同地政府ニ交渉スル處アリ其結果同年十月一日ヨリ實施スルコトナリタルカ右實施ノ曉ニハ種々困難ナル實際問題

外 務 省

(赤 梓 紙) ト

湧出スヘク豫想セラルルヲ以テ同領事ヨリ我政府ニ於テ歸國旅費不辨並ニ土人ニ對スル負債ヲ政府ニ於テ償却ノ能否、乘船廻船、歸國后授産施設ノ有無等ニ關シ請訓シ來レリ

西 貢

大正十年八月領事報告各樓主ヲ呼出シ一定ノ猶豫期間ヲ與ヘ全部廢業方諭達スルト同時ニ新規醜業婦ノ抱入ヲ差止メ一面同地官憲ニ對シ絶對ニ新規ノ許可ヲナササル様協議ヲ遂ケタリ

スラバヤ

大正十年七月領事報告。管内「バククババン」ノ如キハ同地日本人會々長ヲシテ企業ニ復歸スヘキ様諭示セシメタル結果歸國又ハ縁付等ニ依リ一掃スルコトヲ得。其他「マカツサ」及「スラバヤ」ニ於

外 務 省

テモ同様民團長ノ諭示ニ依リ大部分廢業シタリ

濠洲

從來絶エス説諭ヲ加ヘ廢業歸國セシムルノ方針ヲ採リ以テ増加ヲ防
止シ來レルカ千八百九十七年同洲政府ハ外國人移住制限法ヲ發布シ
醜業婦及之カ關係者ト認ムヘキ者ノ入國ヲ絶對ニ禁止シタルヲ以テ
同年以後ハ新ニ侵入スルノ途ナク又在來ノ者ノ内或ハ南阿ニ移住シ
又ハ歸國スルモノアリ漸次減少ノ形勢ナルモ只タ北部海岸地方ハ警
察力不充分ナルニ乘シ帆船又ハ漁船ニテ密航スルモノアリテ之等ノ
杜絶頗ル困難ナルモノアリトス

米國

桑港「シヤトル」等太平洋沿岸諸州ニ於テハ一時米國官憲ニ於テ之

外務省

(赤棒紙)ト

カ取締ヲ勵行シ醜業婦密航嫌疑者ヲ逮捕シタル等ノ事アリシモ遂ニ
根絶ニ至ラス其後在留邦人中ノ健全分子ノ請求モアリ旁々出先領事
ヨリ市當局ニ向テ斷然之カ禁止方法規ノ勵行ヲ促スト雖利害關係者
ノ抗議ヲ顧慮シテ取締兎角手續ヲ却ツテ米國官憲ニ於テハ邦人醜業
婦絶滅ノ根本策ハ本邦婦女ノ入國ヲ絶ツニ在リトナシ益々邦人ノ入
國取締ヲ嚴重ニシ寫眞結婚呼哥ヲ廢止スルニ至リ遂ニ正當ナル本邦
婦女ノ入米ヲ困難ナラシムルノ結果ヲ順致シタリ

比律賓

「マニラ」ニ於テハ大正七年十月同地米官憲ハ大統領ノ布告ニ基キ
軍隊所在地十里以内ニ在ル遊廓舞踏場等ヲ撤廢スルコトナリ在「マ
ニラ」市日本人醜業婦百二十二名ニ對シ同月十六日朝五時ヲ以テ營

外務省

業ヲ禁止シ同十七日同地出帆南京丸ニテ比島政府ノ費用ヲ以テ本邦
ニ送還スルコトニ決定シ其旨我カ領事ニ通告シ來レルカ同時ニ右實
行ニ關シ可成移民法ノ規定ニ依ルコトヲ避ケ便宜上我領事ノ說諭ニ
依リ歸國スルヤウ取計方依頼シ來レリ於茲我カ領事ハ主義トシテ勿
論之ニ同意シ只彼等ノ財産整理ノ必要アルヲ察シ比島官憲ニ非公式
ニ交渉ノ結果同月廿三日同地發本邦船ニテ歸國セシムルコトニ變更
シ同日遂ニ一舉送還ヲ了セリ

「ダバオ」ニ於テハ大正十年十月分館主任ノ報告ニヨレハ同地日本
人會長ト謀リ營業者ニ對シ速ニ廢業スヘキ旨同會長ヲシテ申渡サシ
メタル結果續々廢業シ唯々經濟上ノ理由ニヨリ少數者ノ不得止一定
時期迄殘留スルモノヲ除キ事實上全滅ノ姿ナリ

(赤
律
紙)
ト

外
務
省

サンパウロ及リベロン、プレト

大正十年九月領事報告、各醜業婦ヲ召致シ一定ノ猶豫期間ヲ附シ廢
業ノ上企業ニ復歸スル様勸告シ實際之ニ應セサル者ハ同地政府ニ依
頼シテ州外放逐ノ處分ニヨリ日本船艀内ニ放逐スルコトトシ之ニ基
キ實行シヨクノ

(赤
律
紙)
ト

外
務
省

條約第三項

中華民國左為印人數

中華民國五年印和人數									
		滿洲		天津青島上海漢口		廣東福州		總數	
		滿洲		天津青島上海漢口		廣東福州		總數	
		滿洲		天津青島上海漢口		廣東福州		總數	
		滿洲		天津青島上海漢口		廣東福州		總數	
本邦内地人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	本邦内地人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	本邦内地人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	本邦内地人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	本邦内地人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四
朝鮮人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	朝鮮人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	朝鮮人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	朝鮮人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	朝鮮人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四
台灣人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	台灣人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	台灣人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	台灣人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	台灣人	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四
總數	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	總數	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	總數	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	總數	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四	總數	男 三三九七 女 三三九七 計 六七九四

(美濃全昇紙)

Number of Japanese Subjects Resident in China														
	Manchuria		Tientsin, Tsingtao, Tsinan, Chefoo		Shanghai, Hankow, Nanking, other places		Canton, Fuchow, Amoy, Swatow		Total		Aggregate total		Hongkong and Amoy	
	House- hold heads	Family members	House- hold heads	Family members	House- hold heads	Family members	House- hold heads	Family members	House- hold heads	Family members	House- hold heads	Family members	House- hold heads	Family members
Male	32.397	23.707	7.160	5.612	11.535	6.382	441	230	19.136	12.224	51.533	35.931	704	228
Japanese Female	5.738	46.690	1.944	10.289	2.923	8.563	155	474	5.022	19.326	10.760	66.016	251	439
Total	108.532		25.005		29.403		1.300		55.708		164.240		1.622	
Male	305.534		779		476		13		1.268		306.802		9	
Koreans Female	260.192		563		309		7		879		261.071		5	
Total	565.726		1.342		785		20		2.147		567.873		14	
Male	12		99		441		5.090		5.630		5.642		62	
Formosans Female	8		23		174		3.428		3.625		3.633		13	
Total	20		122		615		8.518		9.255		9.275		75	
Aggregate total	674.278		26.469		30.803		9.838		67.110		741.388		1.711	

先口金多敷の原に、
より多敷の大各陸利決例
を、(内務省と所令等)
司務官、佐藤清吉
石川幸次郎

昭和六年八月

貸金並損害賠償請求ノ件

(大正十年九月廿九日第四百五十五号
大正十年九月廿九日第三民事部判決)

判決要旨

一、甲乙連帯シテ丙コ対シ甲ノ藝妓稼業契約期間(十年)
中藝妓稼業ヨリ生スル收益全部ヲ丙ノ所得ト爲シ甲ニ退
去逃走等ノ所行アリタルトキハ契約成立ノ日ヨリ總テ
ノ損害ヲ賠償スヘキコトヲ約スルカ如キハ甲乙ヲシテ
苛重ノ責任ヲ負ハシメ依テ以テ十年間甲ヲシテ藝妓稼
業ヲ行ハシマンコトヲ目的トスルモノナレハ著シク甲
ノ自由ヲ拘束スルモノト謂フヘク從テ斯ノ如キコトヲ
内容トスル藝妓稼業契約ハ民法第九十條ニ依リ無効ナ
ルヲ以テ之カ保証契約モ亦無効ナリトス

(参照 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項)

ヲ目的トスル法律行為ハ無効トス民法第九十條)
一、如上契約成立當時甲乙カ前借金トシテ丙ヨリ金圓ヲ受
領シタル場合ニ於テ該金圓カ純然タル消費貸借ナリヤ
將タ名義ハ貸借契約ナレトモ其真意カ藝妓稼業ヲ爲サ
シタル対價トシテ金圓ヲ授受シ甲ニ不當ノ所行アルト
キハ損害賠償トシテ同額ノ金圓ヲ支拂ハシムル意義ナ
リヤ若シ其意義前者ナリトセハ丙ハ藝妓稼業契約ノ効
力如何ニ關係ナク前借金ノ返還ヲ請求シ得ヘント雖モ
其意義後者ナリトセハ無効ナリトスヘク從テ如上前借
金返還請求権ノ有無ヲ定メントスルニハ其意義ヲ判定
セサルヘカラサルモノトス

養子縁組無効確認請求事件（大正十二年（一九二三年）第五三四号）
同年九月三日第三民事部判決

判決要旨

縦令縁組ノ當事者カ養子縁組届書ニ署名捺印シテ縁組ニ関スル表示行為ヲ為スモ真ニ縁組ヲ為スノ意思ヲ有セサルトキハ民法第八百五十一條第一号ニ所謂當事者間ニ縁組ヲ為ス意思ナキ場合ニ該當スルヲ以テ其ノ養子縁組ハ無効ナリトス原判決ノ認メタル事實ニ依レハ被上告人ハ上告人トリヨリ金百圓ヲ借受ケ上告人シヅヲシテ大正六年三月中ヨリ向フ八年間久留米市紺屋町ナル上告人トリ方ニ於テ藝妓見習稽古及藝妓稼業ニ従事セシメ藝妓稼業ニ因ル收得金ヲ以テ右債務ノ弁済ニ充ツヘキコトヲ約シ右期間其ノ約旨ノ履行ヲ確保スル

方法トシテ上告人シヅヲ同トリノ養子トシテ縁組ノ届出ヲナスコトトシ同年三月二十日之カ届出ヲ為シタルモノニシテ右トリ及シヅ間ニ於テ真ニ養子縁組ヲナスノ意思ヲ有セサリシコト明ナレハ原院カ本件養子縁組ハ民法第八百五十一條第一号ニ依リ無効ナリト判示シタルハ相當ナリ

obliging indemnification of damage to the same amount in case A acts unfairly. If the agreement is in its purport as mentioned first C may demand for payment of the money advanced to A regardless of the validity of her agreement to engage in the trade of a geisha, but if it is in its purport such one as mentioned next, it is invalid. Consequently, in order to ascertain whether C has the right to demand the payment of the money advanced to A or not, the purport of the agreement must first be determined.

Case of Demand for Confirmation of the Invalidity
of Adoption of Daughter.

(Judgment delivered by the Third Division of Civil Matters
on September 2, 1922.)

Gist of Judgment.

When the person concerned has no real intention to be adopted as a daughter, though she has done an expressed act by signing her name and stamping her seal on a document reporting to the Government authorities that she has been adopted as a daughter, her case comes within the purview of the case mentioned under Item 1 of Article DCCCLII of the Civil Code, which refers to a person having no intention of being adopted as a son or a daughter or marrying. For this reason, the adoption of the person concerned as a daughter

- 3 -

daughter is invalid. According to the facts recognized in the original judgment, respondent borrowed 100 yen from appellant, Tori promising that respondent Shizu should be trained as a geisha and later engage in the trade of a geisha for eight years after March, 1917, at the house of appellant Tori at Konya machi in the city of Kurume and pay back her debt with the profits she would make by engaging in the trade of a geisha. As a means for securing the fulfilment of the above mentioned agreement during the term referred to, it was arranged that a report should be presented to the Government authorities that respondent Shizu was adopted by appellant Tori as a daughter and the fact was reported under date March 20 of the same year. It is obvious from these facts that neither Tori nor Shizu had any real intention of adoption. Accordingly, judgment delivered by the original Court, that the case of adoption in question is, according to Item 1 of Article DCCCLII of the Civil Code is invalid, is right.

Case of Demand for Payment of Debt and Damage.

(Judgment delivered by the Second Division of Civil
Matters on September 29, 1921)

Gist of Judgment.

I. An agreement binding A and B jointly to turn over to C as C's income the profits arising from the trade of a geisha which A will pursue during the term of agreement (ten year) in their entirety, and in case A retires from the trade or conceals herself, damage shall be indemnified to C from the date of agreement, is one that puts too heavy a responsibility upon the shoulders of A and B, and aims at obliging A to engage in the trade of a geisha for the said term of ten years. Such an agreement, therefore, may be said to restrict the freedom of A to a marked degree. Hence an agreement to engage in the trade of a geisha with such contents as have been above mentioned is, according to Article XC of the Civil Code, invalid and an agreement guaranteeing it is also invalid.

(Reference: Article CX of the Civil Code reads: "A legal act aimed at a matter that goes contrary to the public order or good morals is invalid.")

II. At the time an agreement such as has been above mentioned was made, if A and B received money in advance from C, a question arises whether the money was advanced as a loan pure and simple, or whether, through the agreement is nominally one for a loan, is in its real purport one implying payment made in return for the trade of a geisha to be pursued and
obliging

海外渡航ノ醜業婦取締ニ關スル件

南支、南洋方面渡航ノ醜業婦取締方ノ件

(昭和三年三月六日附通商局長ヨ
リ警視總監、各地方長官ニ通牒)

香港、海峽殖民地、蘭領東印度、佛領印度支那、暹羅、英領印度
及比律賓群島方面ニ於ケル本邦醜業婦ハ内地官憲ノ嚴重ナル取締
ト在外公館ノ努力トニ依リ漸次減少スルニ至リタリト雖今尙其ノ
徒ハ巧妙ナル手段方法ヲ講シ種々ノ名目ノ下ニ正當旅券ヲ得テ渡
航スル者サヘアリ問題ヲ惹起スル場合尠ナカラサル實狀ナルカ此
ノ種取締ニ干シテハ内地官憲及在外公館ノ協力ニ俟ツニアラサレ
ハ到底實績ヲ擧ケ得サル次第ナル處前記各地ノ在外公館ニ於テハ
再渡航又ハ呼寄ニ付嚴重ナル調査ヲ遂ケ容疑ノ點アル者ニ對シテ

11

ハ證明書ノ發給ヲ拒否シ居レリ然ルニ右證明書ヲ得ラレサリシ者
ニシテ再渡航シ又ハ婦女ヲ呼寄せ或ハ同伴渡航スル者近頃増加ノ
傾向アルニ付當省ニ於テ之等ニ對スル旅券下付ノ事情ヲ調査シタ
ルニ其ノ多クハ領事證明ナキ者若ハ證明書ハ所持スルモ身元調査
ニ當リ注意ノ足ラサリシニ基因シ居ルモノナルヤニ思考セラルル
ニ付テハ今後同方面行婦女子ヨリ旅券下付方出願アリタル節ハ其
ノ再渡航ナルト呼寄又ハ同伴ナルトニ拘ハラス身元御精査ノ上領
事證明書ヲ所持セサル者及證明書ヲ有スルモ醜業若ハ醜業媒介從
事ノ疑アル者或ハ之等ニ化スル虞アリト認メラルル者ニ付テハ一
應當省ヘ御協議相成様致度シ

英領香港、馬來半島、露領西伯利方面婦女ノ渡航ニ干スル件

12

(大正十四年八月六日附福岡縣知事照會
同年九月二十九日附通商局長回答)

照 會

首題ノ各地ニ渡航スル婦女ノ取締方ニ干シテハ從來屢々御通牒ノ次
第モ有之候處近來會社商店ノ店員、事務員又ハ病院ノ看護婦等妙齡
婦女ノ單獨又ハ同伴ニテ同地方面へ渡航スル者往々有之此等ノ渡航
者ニ對シテハ願人ノ渡航後ヲ慮リ可成其會社商店主病院等ノ呼寄ニ
關スル書面ヲ提示セシメタル上旅券下付致來居候處或ハ渡航期日切
迫シ其他同伴者等ノ都合ニ依リ之カ書類ヲ提示スルコトヲ得サル者
有之如斯場合ニアリテハ其ノ願人及同伴者ノ身元確實ニシテ醜業婦
タル疑ナキニ於テハ其ノ雇傭ノ事實ハ確認シ難キ場合ト雖旅券下付
差支無之哉同地方面行旅券下付ニ付テハ行政廳ノ自由裁量ニ依ルト

13

雖該地醜業婦ノ渡航ニ干シ特ニ嚴重取締方豫メテ御通牒ノ次第有之
ニ付御意見一應承知致度(下略)

回 答

(前略)右ハ貴見ノ通り可成呼寄等ニ干スル書面ヲ添へ出願セシメ
ラルルコト可然ト存候へ共渡航期日切迫其ノ他ノ理由ニテ是等ノ書
面ヲ提示シ難キ場合ニ於テハ貴廳ニ於テ出願者及干係者等ノ身元並
渡航ノ事情等ヲ周密調査セラレタル上ニテ醜業從事ノ疑無キコト確
實ナリト認メラルル者ニ對シテハ旅券ヲ下付セラレ差支無之ト存候
條右ニ御取扱相成度(下略)

14

英領海峽殖民地へノ醜業婦渡航取締方ニ關スル件

(明治四十五年六月十二日在新嘉坡領事代理請訓ニ對スル大正元年八月十九日附大臣回訓、同日通商局長ヨリ各地方長官ニ寫送付(請訓文省略))

本年六月十二日付公第一〇七號ヲ以テ新嘉坡方面へ渡航スル醜業婦取締方ノ儀ニ關シ縷々御稟申ノ趣了悉向後其地居留民ヨリ在留證明書發給方ヲ貴館へ願出ツルトキハ申請者ノ身元、業態等ヲ慎重ニ考査セラレ明ニ醜業婦呼寄ノ用ニ供スルモノト信スヘキ理由アル場合ニハ一切證明書發給相成ラサルコトニ御取扱相成度將又願面ニハ呼寄ノ目的ヲ明記セシメラレ證明御發給ノ際ニハ云々ノ目的ノ爲出願ニ付此證明ヲ與フル旨證明書中ニ御書入レ相成候様致度候向本訓令ノ趣旨ハ各地方長官ニ通牒致置候(下略)

15

新嘉坡方面へ渡航スル醜業婦取締方ニ干スル件

(大正元年八月十九日附通商局長ヨリ各地方長官ニ通牒)
近來新嘉坡方面へ渡航スル醜業婦ノ(中略)取締方ニ關シ在新嘉坡領事代理ヨリ稟申ノ次第有之右ニ對シ別紙寫ノ通り訓達相成候條今後同地方へ渡航スル婦女ニシテ領事發給ノ何等證明書ヲ提示スルコトナクシテ旅券ノ發給ヲ乞フモノニ對シテハ醜業ノ目的ヲ以テ渡航スル者ニ非サルヤ否ヤ事實ヲ探究シタル上ニテ正業者ニ限り旅券御下付相成度將又在新嘉坡帝國領事發給ノ在留證明書ニヨリ婦女ヲ呼寄セントスルモノアル場合ニハ其事實カ右證明書ニ明記シアル目的ニ符合スル場合ニ限り事實ノ真正ヲ認メラレタル上旅券ヲ下付セラ
ルルコトニ御取扱相成候様致度(下略)(別紙ハ前掲大正元年八月

16

十九日附送第六號外務大臣ヨリ在新嘉坡領事代理宛回訓)

17

在新嘉坡帝國領事館發給國籍證明書ニ于スル件

(大正八年四月十六日外務次官ヨリ警視總監、各地方長官、關東

州民政部長及拓殖局長官ニ通牒)

從來在新嘉坡帝國領事館ニ於テハ海峽殖民地外國人登録條例ニ規定セル登録未了ノ本邦人ニシテ同地ヲ出發セントスル者ニ對シ國籍證明書ヲ發給シ來レル處尙本年一月以來香港ヲ經由スル船客ハ凡テ旅券又ハ國籍證明書ヲ携帯スルノ必要ヲ生シタル結果今後同館ニ於テ發給スル國籍證明書ハ一層多數ニ上ルヘキ見込ナルカ右國籍證明書ハ同地ヲ出發セントスル邦人ニ對シ等シク發給セラルルモノナルモ同領事館ニ於テハ醜業婦等取締ノ必要上再渡航又ハ呼寄ニ對シテハ

18

B-0919

0120

特ニ嚴重ナル調査ノ結果別ニ在留證明ヲ發給スルコトニ致居趣ヲ以テ今後右在留證明書ヲ所持セサルモノカ國籍證明書ノミヲ地方廳ニ呈示シテ同地方旅券ノ下付方ヲ出願スルモ右證明書所持ノ故ヲ以テ何等特別ノ便宜ヲ與ヘサル様致度旨今般別紙寫ノ通在新嘉坡領事ヨリ申越候ニ付委細右ニ就キ御了承ノ上今後同地方旅券發給ハ右ニ依リ御取扱相成候様致度（下略）（別紙省畧）

醜業從事ノ虞アル者ニ對シ渡航取締方ノ件

（大正九年一月二十日通商局長ヨリ警視總監
各地方長官、拓殖局長官ニ通牒）

北米合衆國、布哇、加奈陀其ノ他（中略）諸國ニ赴ク者ニ對シテハ可成簡易迅速ニ旅券下付方御取計相成度旨客月十六日附通三合送第一六四五號ヲ以テ申進置候處同信末段ニモ記載ノ通犯罪者、浮浪者、醜業婦等ニ對シテハ固ヨリ此限ニ無之右等ノ者ノ海外渡航ハ常ニ嚴重御取締相成居候義ト存候ヘ共今同在新嘉坡總領事代理ヨリ別紙寫（略ス）ノ通電請ノ次第有之候ニ付委細右ニテ御了知ノ上醜業婦等ノ海外渡航ニ付テハ今後特ニ嚴重御取締相成度（下略）

新嘉坡ニ於ケル醜業婦歸國ニ關スル件

（大正十年五月三日附通商局長ヨリ警視總監、長崎、山口、佐賀、福岡、神奈川、大分、滋賀、熊本、廣島、兵庫、愛媛、宮崎、高知、千葉、和歌山、岡山、靜岡、愛知、大阪、香川、鹿兒島、各地方長官ニ通牒及外務次官ヨリ内務次官ニ寫送付）

新嘉坡地方ニ於テハ醜業ニ從事セル邦人婦女（中略）ハ自發的ニ昨年十二月ヲ限り廢業シ既ニ本邦ニ歸國シタル者別紙調書ノ通ニ有之本年六月迄ニ大体全廢スルニ至ルヘキ豫定ノ趣同總領事代理ヨリ報告有之候條是等廢娼歸國者ニ對シテハ此際相當安定ノ途ヲ得セシメ再ヒ醜業ノ爲海外ニ渡航スルカ如キコト無之様保護取締方相當御措置相成度（別紙調書省略）

新嘉坡ニ於ケル醜業婦歸國ニ關スル件

（大正十年七月二十三日附外務大臣ヨリ在新嘉坡總領事代理ニ訓達）

貴管内在留邦人醜業婦廢止成行ニ關シ客年十二月二十九日附公第一五一號ヲ以テ御報告ノ趣了承右ニ付當時關係各地方廳ニ通牒シ是等歸國者ニ對シ相當保護ヲ與ヘ安定ヲ得セシムルト同時ニ醜業ノ爲再ヒ海外ニ渡航スルカ如キコト無キ様取締方注意ヲ與ヘ一面内務省ニ右ノ趣通報致置候處今般別紙寫ノ通同省ヨリ申越候條委曲右ニテ御承知ノ上出來得ル限り同省申出ノ通其都度豫メ御報告相成様致度（略）

別紙（大正十年七月十九日附内務次官ヨリ外務次官ヘ通知）

標記ノ件ニ關シ五月三日通三送第二六三號ヲ以テ御通報ノ次第モ

有之候處右歸國者ニ對シテハ本省ニ於テモ相當ノ方法ヲ講シ生活ノ安定ヲ得セシメ度候條今後歸還ノ場合ハ本國ニ到着前左記事項御通報相煩度

記

一 出發年月日

一 出發地

一 搭乘船名

一 到着豫定年月日

一 上陸地

一 歸國者本籍、氏名、年齢

23

新嘉坡方面ニ渡航スル醜業婦取締方ニ關スル件

(大正十四年九月一日附通商局長ヨリ警視總監
北海道廳長官、各府縣知事ニ通牒同月十一日
附拓殖局長ニ本件移牒)

新嘉坡地方ニ於テ醜業ニ從事スル本邦婦女ノ(中略)處置方ニ關シ
ナハ從來在同地帝國總領事館ニ於テ苦心シ居リ之カ取締方ニ付テハ
屢次申進置タル通ナル處今般在同地總領事ヨリ更ニ別紙寫ノ通申越
タリ本件ハ内地官憲ニ於テ其ノ渡航ヲ嚴重取締ルニアラサレハ單ニ
在外公館ノ努力ノミニヨリ成績ヲ舉クルコト困難ナリト思考セラル
ルニ付ソノ御含ヲ以テ同地方行婦女子ヨリ旅券下付方出願ノ節ハ特
ニ本人ノ性行ヲ精査シ醜業從事ノ虞アル者乃至醜業婦ニ化スル虞ア
ル者ニ對シテハ旅券ヲ下附セサル様御注意相煩度

24

別紙

25

(大正十四年八月八日附在新嘉坡總領事發外務大臣宛報告)
當館ニ於テハ從來醜業ヲ目的トスル婦女子ノ渡航又ハ醜業婦ト化スヘキ疑アルモノノ呼寄、再渡航ヲ取締ランカ爲管内各日本人會ト連絡ヲ取り諸事項精査ノ上差支ナシト認メタルモノノミニ對シ呼寄證明書又ハ再渡航證明書ヲ發給シ居レル次第ナルカ最近各府縣ニ於テ之等婦女子ノ當方面渡航ニ對スル取締稍緩漫ニ流レタルカ如ク思料セラル其ノ實例トシテハ呼寄證明又ハ再渡航證明ヲ得サリシ婦女ニシテ容易ニ旅券ヲ手ニ入レ渡航シ私娼トナリ居レルモノ可ナリアル見込(中略)今ヤ本邦人公娼復活問題モ起リ居レル折柄ナルニ付之等婦女子ノ當方面渡航ニ對シテハ相當調査ノ上旅券ヲ下付スルコトト致度

26

醜業ヲ目的トスル本邦婦女ニ對スル旅券下付方ノ件
(「明治四十五年三月十四日在ハルピン總領事請訓ニ對スル同年四月十日外務大臣回訓」請訓文省略)
(上略)近來露領方面ニ向フ婦女ヨリ貴館ニ旅券下付ヲ願出ツル者ノ數漸次増加ノ傾向アル旨御申越ニ候處右ハ内地ニ於ケル旅券下付ノ手續煩雜ナルト日子ヲ要スルコト多キカ爲トノミ推斷スルヲ得ス内地ニ於テハ醜業ノ目的ヲ以テ外國ニ渡航スル者ニ對シテハ一般ニ旅券ヲ下付セサルニヨリ此種婦女中ニハ無旅券ニテ一旦(清國)ニ渡航シタル上其地帝國領事館ニ旅券ノ下付ヲ出願スル者モ可有之ト被存候元來醜業婦ノ外國渡航ハ極メテ好マシカラサル事態ニシテ政府ハ出來得ル限り之カ抑止ヲ圖リ居ル次第ニ候條貴見ノ通り將來醜業

ニ從事スルモノト認メラルル露領行婦女ニハ一切旅券ヲ下付セラレ
サル様致度（下略）

27

浦潮斯德方面渡航者ニ對シ旅券下付方注意ヲ要スル件

（大正十一年九月十三日附外務次官ヨリ警視總監、北海
道廳長官、各府縣知事ニ通牒同月十六日附拓殖局長ニ
本件移牒）

近來浦潮斯德方面へ渡航スル邦人中ニ確的ナル目的ヲ有セスシテ渡
航スル者アル爲メ何等生計ノ途ナク窮迫ヲ極メ（中略）殊ニ同方面
在留邦人ノ引揚等混雜セル際一層渡航取締ヲ講スル必要アル
旨今般在浦潮斯德總領事ヨリ申越ノ次第有之候元來同方面渡航出願
者ニ對シ各地方廳ニ於テハ其ノ身分經歷渡航目的等明瞭ナルトキハ
可成簡易ノ手續ニ依リ旅券下付ノ取扱ヲ爲スハ勿論ナルモ又一方ニ
於テ其身元渡航目的等確實ナル認定立チ難キ場合ニハ相當ノ調査

28

ヲ遂ケラレ苟モ確實ナル目的ナクシテ渡航スル者又ハ醜業關係等ノ
疑アル者ニ對シテハ旅券ヲ下付セサルコトニ御措置相成度（下略）

西比利亞行旅券下付ニ付テノ取締方ニ干スル件

（大正十四年二月二十七日附通商局長代理ヨリ警視總監、北海

道廳長官、各府縣知事ニ通牒）

本件ニ關シ今般在浦潮斯德總領事代理ヨリ別紙ノ通申越候ニ付委曲
右ニテ御了知相成同地方渡航者ニ對スル旅券下付方ニ干シテハ右御
參酌ノ上可然御取扱相成度（下略）

別紙

日露修好後當方面ニ渡航スル帝國臣民（鮮人ヲ含ム）ニ對シ左記取
締方法ヲ講スルハ目下既ニ内地及滿鮮ヨリ當方面ニ渡航セムトスル
者多數ナル模様ニ鑑ミ緊急事ト思考ス

勞農側ハ我カ堅實ナル資本家技術員等ノ來援ヲ歡迎スルハ勿論ナル

モ左記種類ノモノハ主義制度上排斥スルモノニシテ且本人等ノ生存
不可能ニ屬シ（中略）有害ノ者ト認ムルニ付是等ノ渡來ハ爾今政府
ニ於テ嚴重取締ラレ旅券ヲ下付セサルコトト致シタク本件御採用ノ
上ハ當該官憲ニ夫々御手配アリタシ

ハ省略

ニ醜業婦及其ノ關係者ハ以前經驗ヲ有スル者及新渡航者トモ

ニ乃至ハ省略

寫

通三合送第七〇五號

大正十年五月三日

田中通商局長

長崎、山口、佐賀、福岡、神奈川、大分、滋賀、
熊本、廣島、兵庫、愛媛、宮崎、高知、千葉、和歌
山、岡山、靜岡、愛知、大阪、香川、鹿兒島、
警視總監宛

新嘉坡ニ於ケル醜業婦歸國ニ關スル件

從來新嘉坡市ニ於テハ醜業ニ從事セル邦人婦女ノ數頗ル多ク之カ處
置方ニ關シ尠カラス苦心セル所去ル大正八年以來在同地山崎總領事
代理ノ盡力ニ依リ同總領事館管内全數千二百名ノ娼婦中約半數ハ自
發的ニ昨年十二月ヲ限リ廢業シ既ニ本邦ニ歸國シタル者別紙調書ノ

(赤枠紙)ト

6.3

外務省

(赤枠紙)ト

通リニ有之他ハ本年六月迄ニ大條全廢スルニ至ルヘキ豫定ノ趣同總
領事代理ヨリ報告有之候條是等廢娼婦歸國者ニ對シテハ此際相當安定
ノ途ヲ得セシメ再ヒ醜業ノ爲メ海外ニ渡航スルカ如キコト無之樣保
護取調方相當御措置相成度此殿申進候也

6.3

外務省

B-0919

0128

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	大正九年
十一月	・	十月	・	・	九月	・	八月	・	七月	六月
伊	加	因	北	佐	三	丹	横	加	静	熱
豫	茂	幡	野	渡	島	波	濱	賀	岡	田
一	五	一	一	二	五	一	二	五	三	一五

外務省

(赤枠紙)

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	大正九年
・	・	五月	・	四月	三月	・	二月	・	・	一月
加	阿	因	北	笠	丹	加	タ	コ	船	名
茂	波	幡	野	戸	波	茂	マ	マ	員	数
二	六	五	一	六	二	一	一	一	員	数

外務省

(赤枠紙)

B-0919

0129

外務省

○ 海峽殖民地マラツカ (Malacca)					
計	大正九年三月	同 四月	同 六月	同 七月	同 九月
	丹 波	三 島	熱 田	靜 岡	北 野
	船 名	員 数			
	二	三	二	一	一
九					

(赤枠紙)ト

外務省

大正九年十一月	
計	熱 田
九六	一

(赤枠紙)ト

B-0919

0130

○ジョホール州ジョホールバン				
出	大	同	同	同
發	正	同	同	同
年	九	同	同	同
月	年	七	九	十
	五	月	月	一
	月			
船	因	靜	加	伊
名	幡	岡	茂	豫
員				
數	一	三	一	一
計	六			

外務省

6.3

(赤枠紙)ト

○海峽殖民地プロビンス ウェレスレー				
出	大			
發	正			
年	九			
月	年			
	五			
	月			
船	因			
名	幡			
員				
數	三			
計	三			

外務省

6.3

(赤枠紙)ト

B-0919

0131

外務省

○ジョホール州バトバ					出 發 年 月	船 名	員 數
大正四年					同 同 同	同 同 同	同 同 同
計					七月 六月 四月	靜 熱 笠	五 一 二
一〇					岡 田 戸	島	二

(赤 梓 紙) ト

外務省

○ジョホール州ジョホール河及鐵道沿線					出 發 年 月	船 名	員 數
大正九年					同 同 同	同 同 同	同 同 同
計					十一月 七月 六月	伊 靜 伊	一 四 五
一一					豫 岡 豫	幡	一

(赤 梓 紙) ト

B-0 9 1 9

0132

○ネグリスミラン州									
大正九年	同	同	同	同	同	同	同	同	出 發 年 月
二月	四月	五月	六月	六月	七月	七月	八月	八月	
加	北	因	伊	熱	靜	加	横	丹	船
賀	野	幡	豫	田	岡	賀	濱	波	名
一	二	三	一	一	二	一	一	三	員 数

外務省

6.3

(赤枠紙)ト

○ジョホール州ムア									
大正九年	同	同	計	出 發 年 月	船	名	員 数		
七月	八月	十月			加	茂	二	一	
加	横				濱	濱	一		
賀									
二	一	四							

外務省

6.3

(赤枠紙)ト

B-0919

0133

○セラシゴール州								
大正九年	同	同	同	同	同	同	同	同
二月	二月	三月	六月	六月	七月	七月	八月	九月
加賀	横濱	丹波	伊豫	英國汽船	静岡岡	加賀	横濱	三島
員數	一	七	一〇	一	二	一	六	四

外務省

(赤枠紙)ト

大正九年			
九月	十月	十月	十二月
北野	鎌倉	因幡	静岡岡
一	二	三	一

外務省

(赤枠紙)ト

B-0919

0134

○ペラ州								出發年月
同	同	同	同	同	同	同	同	大正九年三月
同	同	同	同	同	同	同	同	五月
同	同	同	同	同	同	同	同	八月
同	同	同	同	同	同	同	同	八月
同	同	同	同	同	同	同	同	九月
同	同	同	同	同	同	同	同	十月
加	因	條	北	三	丹	横	因	丹
茂	幡	倉	野	島	渡	濱	幡	波
員數								
一	六	〇	三	二	一	一	二	一

外務省

6.3

(赤枠紙)ト

大正九年九月	
同	十二月
計	
因幡	静岡
一	一
三六	

外務省

6.3

(赤枠紙)ト

B-0919

0135

外務省

計	同	同	大正九年	出發年月	○パハン州 <i>Pahan</i>	
	九月	七月	四月	船名		
	佐渡	静岡	北野	員數		
三	一	一	一			

(赤枠紙)ト

外務省

計	同	同	大正九年十一月			
	十二月					
	静岡岡	熱田	伊豫			
三六	二	四	三			

(赤枠紙)ト

B-0919

0136

外務省

	計	大正九年十二月
		静岡
	一〇	一

(赤枠紙)ト

外務省

○ケダ州 (Kedah)								出發年月
同	同	同	同	同	同	同	大正九年	三月
・	十月	・	・	九月	八月	六月		
因幡	鎌倉	加茂	北野	三島	横濱	伊豫	丹波	船名
二	一	一	一	一	一	一	一	員數

(赤枠紙)ト

B-0919

0137

外務省

		總計
		二四七

(赤枠紙)

外務省

				○英領北ボルネオ
				出發年月
		大正九年六月	船名	員數
		熱田		
計	一	一		

(赤枠紙)

B-0919

0138

通三合送第七〇五號

大正十年五月三日

田中 通商局長

長崎、山口、佐賀、福岡、神奈川、大分、滋賀
熊本、廣島、兵庫、愛媛、宮崎、高知、千葉、和歌山
岡山、靜岡、愛知、大阪、香川、鹿兒島、警視總監宛

新嘉坡ニ於ケル醜業婦歸國ニ關スル件

從來新嘉坡市ニ於テハ醜業ニ從事セル邦人婦女ノ數頗ル多ク之カ處
置方ニ關シ尠カラス苦心セル所去ル大正八年以來在同地山崎總領事
代理ノ盡力ニ依リ同總領事館管内全數千二百名ノ娼婦中約半數ハ自
發的ニ昨年十二月ヲ限リ廢業シ既ニ本邦ニ歸國シタル者別紙調書ノ

(赤枠紙)ト

6.3

外務省

(赤枠紙)ト

通りニ有之他ハ本年六月迄ニ大体全廢スルニ至ルヘキ豫定ノ趣同總
領事代理ヨリ報告有之候條是等廢娼歸國者ニ對シテハ此際相當安定
ノ途ヲ得セシメ再ヒ醜業ノ爲メ海外ニ渡航スルカ如キコト無之様保
護取締方相當御措置相成度此段申進候也

6.3

外務省

B-0919

0139

外務省	大正九年									
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	十一月	〃	十月	〃	〃	九月	〃	八月	〃	七月
	六月									
外務省	熱田	静岡	加賀	横濱	波島	三島	佐渡	北野	因幡	加茂
	伊豫									
	一	五	一	一	二	五	一	二	五	三
	一									五

(赤棒紙)ト

6.3

外務省	大正九年									
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	〃	〃	五月	〃	四月	三月	〃	二月	〃	〃
	船名	タコマ	加賀	丹波	笠戸	北野	因幡	阿波	加茂	伊豫
外務省	員數	一	一	二	六	一	五	六	二	二

(赤棒紙)ト

6.3

B-0 9 1 9

0140

外務省

○海峡殖民地マラッカ					出 發 年 月	船 名	員 數
計	同	同	同	同	大正九年三月	丹波	二
	同	同	同	同	四月	三島	三
	同	同	同	同	六月	熱田	二
	同	同	同	同	七月	靜岡	一
	同	同	同	同	九月	北野	一
					九		

(赤
梓
紙)
ト

6.3

外務省

大正九年十一月		熱 田	一
計			九六

(赤
梓
紙)
ト

6.3

B-0919

0141

外務省

○ジョホール州ジョホールバン					出 發 年 月	船 名	員 數
計	同 十 一 月	同 九 月	同 七 月	大 正 九 年 五 月			
	伊 豫	加 茂	靜 岡	因 幡			
六	一	一	三	一			

(赤
枠
紙)
ト

外務省

○海峽殖民地プロビンス ウェレスレー				出 發 年 月	船 名	員 數
計	大 正 九 年 五 月	同	同			
	因 幡					
三	三					

(赤
枠
紙)
ト

B-0 9 1 9

0142

外務省

○ジョホール州バトパパ				
出 發 年 月	大正九年 四月	同 四月	同 六月	同 七月
船 名	三島	笠戸	熱田	靜岡
員 數	二	二	一	五
一〇	計			

(赤枠紙)
ト

外務省

○ジョホール州ジョホール河及鐵道沿線				
出 發 年 月	大正九年 五月	同 六月	同 七月	同 十一月
船 名	因幡	伊豫	靜岡	伊豫
員 數	一	五	四	一
一一	計			

(赤枠紙)
ト

○ネグリスミラン州								
出	發	年	月	船	名	員	數	
大正九年	二月	同	四月	北	野	三	二	一
同	五月	同	六月	伊	豫	一	一	一
同	六月	同	七月	熱	田	一	二	一
同	七月	同	八月	靜	岡	一	一	一
同	八月	同	八月	加	濱	一	一	一
同	八月	同	八月	丹	波	三		

外務省

6.3

(赤枠紙)ト

○ジョホール州ムア				
出	發	年	月	船
大正九年	七月	同	八月	加
同	八月	同	十月	加
計				
加	濱	賀	名	員
一	一	二	數	
四				

外務省

6.3

(赤枠紙)ト

B-0 9 1 9

0144

外務省	○セランゴール州							
	出 發 年 月							
	同	同	同	同	同	同	同	大正九年 二月
	九月	八月	七月	七月	六月	六月	三月	二月
	三	横	加	静	英	伊	丹	横
	島	濱	賀	岡	國	船	波	濱
	二	四	六	一	二	一	一〇	七
	員 數							
	船 名							
	加	横	丹	伊	英	静	加	三
	賀	濱	波	船	岡	賀	濱	島

6.3

(赤 梓 紙) ト

外務省	大正九年 九月			
	同 十月			
	同 十月			
	計	同 十二月	同 十月	同 十月
		静	因	鎌
		岡	幡	倉
		野		
	二二	一	三	二
		一		

6.3

(赤 梓 紙) ト

B-0 9 1 9

0145

外務省	○パハン州			
	計	大正九年四月	同 七月	同 九月
		北野	静岡岡	佐渡
		船名	員数	
	三	一	一	一

(赤枠紙)ト

外務省	大正九年十一月			
	計	同 十二月	同	同
		伊豫	熱田	静岡岡
	三六	二	四	三

(赤枠紙)ト

B-0919

0147

外務省

	計	大正九年十二月
		静岡
	一〇	一

(赤枠紙)

外務省

	大正九年							出發年月	船名	員數
	同	同	同	同	同	同	同	三月		
	〃	十月	〃	〃	九月	八月	六月			
	因幡	鎌倉	加茂	北野	三島	横濱	伊豫	丹波		
	二	一	一	一	一	一	一	一		

(赤枠紙)

外務省

	總計	
	二四七	

(赤枠紙)ト

外務省

○英領北ボルネオ			
計	大正九年六月	出發年月	
	熱田	船名	
	一	員數	

(赤枠紙)ト

Province of Selangor	Feburary	Kaga	1
	do	Yokohama	7
	March	Tamba	10
	June	Iyo	1
	do	British Steamer	2
	July	Shizuoka	1
	do	Kaga	6
	August	Yokohama	4
	September	Mishima	2
	do	Imba	1
	December	Shizuoka	1
	36		
Province of Perak	March	Tamba	1
	May	Imba	2
	August	Yokohama	1
	do	Tamba	1
	September	Mishima	2
	do	Kitano	3
	do	Kamakura	10
	October	Imba	6
	do	Kamo	1
	November	Iyo	3
	do	Atsuta	4
	December	Shizuoka	2
	36		

Province of Pahang.	April	Kitano	1
	July	Shizuoka	1
	September	Sado	1
	3		
Province of Kedah.	March	Tamba	1
	June	Iyo	1
	August	Yokohama	1
	September	Mishima	1
	do	Kitano	1
	do	Kamo	1
	October	Kamakura	1
	do	Imba	2
	December	Shizuoka	1
	10		

Straits Settlement North Bolneo.

June	Atsuta	1
1		

Aggregate Total 247.

Straits Settlements Malacca	March	Tamba	2	
	April	Mishima	3	
	June	Atsuta	2	
	July	Shizuoka	1	
	September	Kitano	1	9
Straits Settlements Province of Wellesley	May	Imba	3	
				3
Province of Johore, Johore Bohru,	May	Imba	1	
	July	Shizuoka	3	
	September	Kamo	1	
	November	Iyo	1	6
Province of Johore, Dis- trict of Johore river and railway-side.	May	Imba	1	
	June	Iyo	5	
	July	Shizuoka	4	
	November	Iyo	1	11

Province of Johore, Batopapa?	April	Mishima	2	
	do	Kasado	2	
	June	Atsuta	1	
	July	Shizuoka	5	10
Province of Johore, Mar?	July	Kaga	2	
	August	Yokohama	1	
	October	Kamo	1	4
Province of Negri Semibilan	February	Kaga	1	
	April	Kitano	2	
	May	Imba	3	
	June	Iyo	1	
	do	Atsuta	1	
	July	Shizuoka	2	
	do	Kaga	1	
	August	Yokohama	1	
	do	Tamba	3	
	September	Kitano	1	
	October	Kamakura	2	
	do	Imba	3	
	December	Shizuoka	1	22

TABLE No.I.

Investigation into the number of women who returned
home giving up the Trade of Prostitutions
in 1920.

	Month of Departure.	Steamer.	Number of Persons.	Total.
Shingapole	Feburary	Takoma	1	
	do	Kaga	1	
	March	Tamba	2	
	April	Kasado	6	
	do	Kitano	1	
	May	Imba	5	
	do	Awa	6	
	do	Kamo	2	
	June	Atsuta	15	
	July	Shizuoka	33	
	do	Kaga	5	
	August	Yokohama	2	
	do	Tamba	1	
	September	Mishima	5	
	do	Sado	2	
	do	Kitano	1	
	October	Imba	1	
	do	Kamo	5	
	November	Iyo	1	
	do	Atsuta	1	Total 96

In regard to the matter in question, I have the honour to inform you that the Acting Consul-General at Vladivostok has written me as noted in the annexed paper. Please acquaint yourself with particulars therefrom and in regard to the matter of granting passports to persons proposing to proceed to that direction, deal with it at your discretion by taking into consideration his suggestions.

Annexed Paper

In view of the great number of Japanese subjects (including Koreans) who desire to cross over hereto after the restoration of friendly relations between Japan and Russia, I consider it a matter of urgent necessity to deal with such persons in the way suggested as follows:

The Soviet Government authorities are of course ready to welcome the coming of our reliable capitalists and technical experts who are willing to extend a helping hand to them, but for the reason of their principle and system are averse to the entry into their country of persons of the under-mentioned descriptions. Moreover, it is impossible for such persons to find means of living here... and their presence here is considered detrimental to our interest. According it is very desirable that the Government will hereafter exercise a very strict control over them and grant them no passports. Should this suggestion of mine meet with your approval, please take the trouble of making due arrangements with

with the Government authorities concerned:

1. Omitted
2. Women of ill fame and persons connected with them (including both those having experiences and those coming for the first time)
3. to 8. Omitted.

of the same year. The text of the request omitted)

(The preceding paragraph omitted) I have noted your report that lately there is a tendency towards gradual increase in the number of women applying for passports to the direction of Russian territory. It can not be concluded that this is solely due to much trouble and time needed in having passports granted at home. No passports are granted at home to those who take passage to foreign countries for the purpose of engaging in prostitution. Consequently it is considered probable that among those women referred to there are some who cross over to China without carrying passports and later apply for passports to one of the Imperial Consulates there. Emigration of women of ill fame to foreign countries is an extremely undesirable matter, which it is the desire of the Government to check as much as possible. Accordingly, as you suggest, I ask you hereafter not to grant passports to such women proposing to proceed to Russian territory who are considered likely to engage in prostitution.

Concerning Matter to be Attended to In Granting

Passports to People Proposing to Take

Passage to the Direction of Vladivostock.

(Communique sent by the Vice-Minister of Foreign Affairs to the Inspector-General of the Metropolitan Police Board, the Governor of Hokkaido and the local Governors under date September 13, 1922, and also to the Director of Overseas Affairs under date the 16th of the same month)

I have

I have received information from the Consul-General at Vladivostock to the effect that among the Japanese who have crossed over to the direction of that port there are some who have done so without any definite object and unable to obtain means of living are in extreme distress..... and that in view of this fact, especially at the present juncture when confusion prevails there due to withdrawal of Japanese residents, it is necessary to take stricter measures of control over the passage of would-be travellers thereto. I need not tell you that when the past careers and social standing as well as the object of journey of persons applying for passports thereto are legitimate and clear, the local governments should take the simplest possible procedure in their favour in granting their applications, but on the other hand in case the several matters just referred to cannot be satisfactorily established, please have due investigation made into them and if there is room for suspicion that such persons have no definite object in undertaking the proposed journey or are connected with shameful callings refuse to grant their applications.

Concerning the Way of Control relative to the Grant of Passports to Siberia.

(Communique sent by the Acting Director of Commercial Affairs to the Inspector-General of the Metropolitan Police Board, the Governor of Hokkaido and the local Governors)

In regard

Concerning the Control of Women of Ill Fame Taking
Passage to the Direction of Singapore.

(Communique sent by the Director of the Bureau of Commercial Affairs to the Inspector-General of the Metropolitan Police Board, the Governor of Hokkaido, and the local Governors under date September 1, 1925 and also to the Director of the Bureau of Overseas Affairs under date the 11th of the same month.)

How to deal with Japanese women engaged in prostitution at Singapore and vicinity has been and is a subject over which our Consular authorities at that port have been and are very much concerned and on several occasions I had the honour of writing to you concerning the control of such women. I have lately received a report on the subject from our Consul-General at that port, a copy of which I annex hereto. In regard to this matter, I think that unless the Government authorities at home exercise a very strict control over the foreign passage of those women above referred to, all efforts put forth by our foreign diplomatic establishments to suppress the evil will be of little avail. Accordingly I venture to ask you that by appreciating what I have just said, you will take steps to have the character and conduct of a woman proposing to proceed to the locality in question and applying for a passport investigated into with special care and grant none to her if it is feared that she will engage in prostitution or turn into a prostitute.

Annexed

Annexed copy

(Report sent by the Consul-General at Singapore to the
Minister of Foreign Affairs under date August 8, 1925)

In order to check a woman, who proposes to engage in prostitution or is likely to turn into a prostitute, from coming, returning or being called for here, we have hitherto been issuing certificates for calling for or certificates for returning to such women only, who, upon careful investigation into various matters made in conjunction with the Japanese Associations in the places under our jurisdiction, have been considered all right. In this connection, I regret to have to say that it appears lately the control of the local governments regarding the passage of women coming here has somewhat relaxed. For evidence I may point out the presence here of a fairly large number of women, who were refused certificates for calling for or certificates for returning but were granted passports without difficulty, came and are engaged in secret prostitution here. In the circumstance, especially in view of the fact that the question of the return of Japanese prostitutes has begun to be discussed, I venture to hope passports will hereafter be granted to decent women only when women propose to take passage hereto.

Concerning Grant of Passports to Japanese Women

Intending to Engage in Prostitution

(Answer given by the Minister of Foreign Affairs under
date April 10, 1912, to request for instruction made
by the Consul-General at Harbin under date March 15

of

the Governors of Nagasaki, Yamaguchi, Saga, Fukuoka, Kanagawa, Oita, Shiga, Kumamoto, Hiroshima, Hyogo, Ehime, Miyazaki, Kochi, Chiba, Wakayama, Okayama, Shizuoka, Aichi, Osaka, Kagawa and Kagoshima Prefectures under date ^{May} 3, 1921.

A copy of the communique was sent by the Vice-Minister of Foreign Affairs to the Vice-Minister of Home Affairs)

Japanese women who were engaged in prostitution at Singapore and vicinity, who voluntarily abandoned their calling after December, last year, and returned home, are as mentioned in the annexed return and the acting Consul-General there reports that the rest are expected to follow suit before June of the current year. Accordingly you are requested to take such measures as will enable such women to find some secure means of livelihood by extending to them due control and protection, so that they may not go abroad again to resume their old calling -----(Vide Table No. 1.)

Concerning the Return Home of Women of Ill Fame
at Singapore

(Instruction issued by the Minister of Foreign Affairs to the Acting Consul General at Singapore under date July 23, 1921)

Having noted the contents of the report you sent me by official report No. 151 dated December 29 of last year on the progress of abandonment of their calling by women of ill fame in the locality under your jurisdiction, I communicated

the

the matter to the local governments concerned asking them to extend to such women due protection and enable them to obtain security of living, calling at the same time their attention to the control to be exercised over them so that they might not go abroad again to resume their old calling. On the other hand I took steps to communicate to the Department of Home Affairs to the same effect. I am now in receipt of a communique, a copy of which I hereto annex, from the Department referred to. You are asked to take note of the matter mentioned in it and forward such a report as has been suggested by the Department every time a woman of ill fame abandons her trade and leaves for home

Annexed Communique

(Sent to the Vice-Minister of Foreign Affairs from the Vice-Minister of Home Affairs under date July 19, 1921)

In regard to the matter mentioned in the headline, I have the honour to say that I received from you communique No. 3 under date May 3 and that my Department desires to take such measures for the women returning home so as to enable them to obtain security of living. May I, therefore, ask you to take the trouble of supplying me with information concerning the undermentioned matters before they arrive home?

1. Date of departure.
2. Place of departure
3. Vessel on which the person returning home takes passage
4. Expected date of arrival
5. Place of landing
6. Permanent domicile, name and age of the person returning home

you are requested to bear this matter in mind and deal with the matter of granting passports to that locality in such manner as is suggested..... (annexed copy omitted)

Concerning Control of Persons Going Abroad Who are Likely to Engage in Prostitution.

(Communique sent by the Director of Commercial Affairs to the Inspector-General of the Metropolitan Police Board the local Governors and the Director of the Bureau of Overseas Affairs under date January 1, 1920)

By communique No. 3 dated the 16th ultimo, I had the honour to ask you to grant in as simple and prompt a way as possible passports to those proposing to travel to the U.S.A., Hawaii, Canada and other countries. As I expressed myself in the concluding part of the communique referred to, no such favour shall of course be extended to criminals, homeless people and women of ill fame and I trust that you are always on the alert to exercise strict control over foreign travels by such persons. Nevertheless, in view of a request made by wire by the Acting Consul at Singapore, a copy of which is hereto annexed (omitted), I must ask you to appreciate its contents and exercise specially strict control over women of ill fame and person connected with them proposing to take passage to foreign countries

Concerning the Return Home of Women of Ill Fame at Singapore.

(Communique sent by the Director of Commercial Affairs to the Inspector-General of the Metropolitan Police Board and the

recently taking passage to that direction, one as given in the annexed copy was given him. Accordingly in dealing hereafter with applications for passports presented by women proposing to take, passage to that locality, who are not in possession of certificates issued by the Consular authorities, you are asked to investigate and ascertain whether or not they are going there for the purpose of engaging in a shameful calling and grant passports to only those who pursue legitimate work. In a case in which women are called for to that locality by virtue of certificates of residence issued by the Imperial Consulate there, you are also asked to grant passports to such women only when fact agrees with the object of journey mentioned in the above-mentioned certificates and everything declared is recognized to be true..... (The annexed copy contains the instruction mentioned above which was sent to the Acting Consul at Singapore by the Minister of Foreign Affairs under date August 19, 1912)

Concerning Certificates of Nationality Issued by
the Imperial Consulate at Singapore.

(Communique sent by the Vice-Minister of Foreign Affairs to the Inspector-General of the Metropolitan Police Board, the local Governors, the Director of the Civil Administration Department of Kwantung and the Director of the Bureau of Overseas Affairs under date April 16, 1919)

Hitherto

Hitherto the Imperial Consulate at Singapore was accustomed to issue certificates of nationality to such Japanese, who had not taken the procedure of having their names registered as provided for in the Act for Registration of Foreign Residents in the Straits Settlements and who desired to leave that locality. Furthermore, since January of the current year it has become necessary for all passengers travelling via Hongkong to carry passports or certificates of nationality on their person. In these circumstances, it is expected that the Imperial Consulate at Singapore will have to issue certificates of nationality in greater number than hitherto. Such certificates of nationality are issued without discrimination to all Japanese leaving that locality, but the Consulate, in consideration of effective control of women of ill fame and persons connected them, has arranged to issue certificates of residence in addition for those who propose to go back there again or call for people at home after making a specially strict investigation into their past careers and social standing. In this connection it is desired by the Consular authorities, as may be seen from the annexed copy of their note, in case persons who are not in possession of the above-mentioned certificates of residence, apply for passports to that locality by presenting to the local government authorities certificates of nationality only, no special facility be given them for simple reason that they possess them. Accordingly,

you

strict control shall be exercised over women going to those territories for the purpose of taking up shameful callings, I venture to ask your opinion

Answer.

(The preceding paragraph omitted) In regard to the matter you mention, I have the honour to say that it is advisable, as you think, to require applicants, if possible to present documents proving that they have been called for, but in case owing to pressure of time for departure or any other reason, such documents can not be presented, I think you are justified in granting passports to them after you have caused thorough investigation conducted into the past careers and social standing of the applicants and other persons concerned and have come to the conclusion that they are above suspicion of ever taking up shameful callings. You are accordingly asked to deal with their cases in the way here suggested.....

Concerning Control of Women of Ill Fame Taking

Passage to the Straits Settlements.

(Answer given by the Minister of Foreign Affairs under date August 19, 1912, to instruction asked for by the Acting Consul at Singapore under date June 12, 1912. A copy of the answer was sent by the Director of Commercial Affairs to each local Governor under date August 19, 1912. Letter of the Acting Consul asking for instruction omitted)

I

I have carefully noted the contents of communique No. 107 dated June 12 of the current year, in which you give a full statement concerning the control of women of ill fame taking passage to the direction of Singapore and ask for instruction thereabout. Hereafter whenever Japanese residents in your locality apply for certificates of residence, you are asked to examine and consider carefully the past careers and social standing of the applicants as well as the nature of business in which they are engaged, and in case you find there is reason to believe that they intend to use them for calling for women of ill fame, to reject their applications. You are also asked to cause applicants for certificates to enter in their applications a clear statement of the object of calling for persons from home and when the certificates are granted to enter therein a remark that they have been granted in response to applications for such and such objects. I may add that the purport of this instruction has been communicated to each local Governor

Concerning Control of Women of Ill Fame Taking

Passage to the Direction of Singapore.

(Communique sent to local Governors from the Director of Commercial Affairs under date August 19, 1912)

Instruction having been asked for by the Acting Consul at Singapore with regard to the control of women of ill fame

recently

into their circumstances and refuse to grant certificates to all those who are doubtful. Lately, however, it has been found that not a few persons who have been denied the above-mentioned certificates have gone back or called for women to join them or gone back accompanied by women. Upon investigation into circumstances in which they have been granted passports, it has been found out that most of them have not been in possession of Consular certificates, and even possessed of them, adequate investigation into their past careers and social standing has not been made. Accordingly, whenever in the future women proposing to take passage to the directions above referred to apply for passports, you are asked to make thorough investigation into their past careers and social standing no matter they are going back there again or going there in company of other people, and as for those who are not in possession of consular certificates, or though possessed of them, admit doubt that they will engage in prostitution or procuration or are likely to turn into such women, to consult with this office.

Concerning Women Taking Passage to the Directions of Hongkong, the Malay Peninsula and Russian Siberia.
(Questionnaire submitted by the Governor of Fukuoka Prefecture under date August 6, 1925 and answer given thereto by the Director of Commercial Affairs under date September 29 of the same year)

Questionnaire.

Questionnaire.

With regard to the control to be exercised over women taking passage to one of the territories mentioned in the head-line, I have the honour to say that I have frequently received notifications from you. I beg to inform you that recently cases have frequently appeared in which young women, either employees of commercial firms or sick nurses in service of hospitals, have taken passage to the above mentioned territories travelling alone or accompanied by other people. In consideration of the welfare of such women after arrival in their destination, we have been granting passports to them after requiring them to present letters calling for them from the heads of the commercial firms or hospitals in which they will be employed. It sometimes happens, however, that due to pressure of time for departure or convenience of their travelling companions, they are unable to present such papers as have just been referred to. In such cases, if the applicants and their travelling companions are found to be sound in regard to their past careers and social standing and are above suspicion that they will engage in prostitution, may we grant them passports even though the fact that they have really been given employment as claimed can not be adequately ascertained? Though granting of passports to persons proposing to take passage to the above-mentioned territories is left to the discretion of the local administrative authorities, in deference to notifications you have previously sent us that

strict

Concerning Control of Women of Ill Fame Taking
Passage to Foreign Countries.

Concerning control of Women of Ill ^{Fame} ~~Fame~~ Crossing to Direc-
tions of South China and the South Seas.

(Communique issued by the Director of the Bureau of Commercial
Affairs to the Inspector-General of the Metropolitan Board and
the Local Governors under date March 6, 1928).

Thanks to the strict control enforced by the Govern-
ment authorities at home and the efforts put forth by our
foreign diplomatic establishments, Japanese women engaged
in prostitution in the directions of Hongkong, straits
Settlements, Dutch East Indies, French Indo-China, Siam, British
India and the Philippines have been gradually decreasing in
number. Nevertheless it is a fact that there are still persons
who make it their business to send women to those territories to
engage in the shameful calling by resorting to some cunning
methods or other and even securing for them legitimate passports
under various names, thereby causing trouble at no infrequent
intervals. No effective control is possible over matter of
this sort without the cooperation of the Government authorities
at home with our foreign diplomatic establishments. Now,
whenever Japanese living in the above-mentioned territories
propose to return home and go back there again or to call for
members of their families to join them, our foreign diplomatic
establishments in those territories conduct strict investigations
into